

女子大生の血液型に対する態度と自意識について

問題

まず心理学における血液型の認識に関して述べていきたい。

そもそも ABO 式血液型と性格との関連について心理学では科学的には根拠のないものとしてされている。しかし現代の若者たちは、血液型診断や血液型占いなどといったものたちを、性格判断に用いることが多い。A 型の血液型を持っている人物は神経質だ、B 型はマイペースだといったように、血液型で性格を判断する傾向にある。

では何故、A 型の人を神経質だといった性格判断をするのか、例題をあげる。

まず一つ目はこの例題を使いたいと思う。例えば、A 型の人がおおざっぱな態度をとったとする、A 型の血液を持つ人は几帳面だと考えている我々からすれば、その時 A 型の人を見ても「めずらしい」だけで済んでしまうだろう。このような現象を心理学では「確証バイアス」と呼ぶ。これは個人の先入観や固定概念に反証するようなことが起こった時に、その証拠を、無視や、否定しようとするときに起こる社会心理学の現象である。

もう一つ例をあげると、例えば「あなたは A 型だから几帳面なのね」と評価され、その評価を信じ几帳面なのが自分だと自己評価し、常に几帳面な行動することを意識しよう。この現象を「バーナム効果」と呼ぶ。これは、人間は自分の性格はこうだと指摘されるとその行動をとろうと意識してしまう現象だ。

以上のことから、このような現象や作用たちが、血液型の性格判断に影響を与えたのではないかと推測する。だからこそ、現代では血液型性格判断のブームが衰えていないのではないかと考える。特に、女子大生はこのような流行ものに敏感だからこそ、女性雑誌には血液型の特集が組まれることが多いのではないかと考える。

次に自意識 (self-consciousness) について述べていきたい。

自意識 (self-consciousness) とは、「自分自身についての意識」という概念である。これは、私的自意識と公的自意識に分かれる。私的自意識とは、自分の内面・気分など、外からは見えない自己の側面に注意を向ける程度の個人差を示すものである。公的自意識は、自分の外見や他者に対する行動など、外から見える事故に注意を向ける程度の個人差を示すものである。

一ノ瀬・村田 (1998) は、女子大生は他人の評価を自己価値として取り入れる傾向が強いのではないかと述べている。他人からの反応や評価が気になるために、自分自身への意識が高くなるのではないかと考える。例えば、現代の女子大生は、写真を取るときも自分自身の写真の写りをよくするために加工を施し、何度も満足いくような写真をたくさん撮

る。これは、単に自分自身を可愛く記録に残したいという思いもあるが、SNSなどに投稿した際に他人に“いいね”などの評価をされるからであるとも考えられる。今日では、Twitterやfacebook、InstagramなどたくさんのSNSがあり、1つの投稿をたくさんの人が自由に見ることができ評価することができる。それゆえに他人の評価に敏感になりしだいに自分自身についての意識も敏感になっているのではないかと考えられる。

以上のことから、血液型を性格判断に重要視する傾向にある女子大生ほど、自己評価が高いのではないかと考えた。先ほども述べたように、人は自分の性格はこうだと指摘されると、その行動をとろうと意識してしまう生き物である。特に青年期の女子こそ、今述べているような現象に敏感ではないだろうか。それが、他人からの評価であれば尚敏感になると考える。だからこそ、自分の血液型の性格に対して、敏感になる人ほど、自己評価も敏感になっていくのではないだろうか。

目的

本研究では血液型性格判断の機能観の因子尺度（岩井・鷹野 1994）と自意識尺度（菅原 1984）を使用し、血液型の認知度と自己意識の関連性を分析することを目的とする。

仮説

血液型性格判断に対する態度が高いと自己意識が高い

方法

調査日時・場所：2016年6月3日椋山女学園大学の大教室で10:50～11:00の間に集団法にて実施した。

調査対象：椋山女学園大学に通う女子大学生 102名に実施し、有効回答数は90名（平均年齢 19.49、SD=0.691）であった。

調査道具：調査紙一枚とペン（または鉛筆）1本を使用する。

調査材料

①血液型性格判断の機能観の因子尺度

岩井・鷹野（1994）の研究の予備調査において「血液性格判断をどのようなものと考えるか」自由記述で求めた結果と上瀬・松井（1991）の使用した項目を参考にして岩井・鷹野（1994）が作成した血液性格判断の機能観の因子尺度を用いた。各項目について「当てはまらない」から、「当てはまる」の5件法で全27項目である。血液型性格判断の機能観の因子尺度を表1に示した。

当初の目的では、全27項目で調査する目的であったが、質問紙作成時に、ミスがあり項目24-27を調査することができなかった。そのため、項目1-23の全23項目で調査をおこ

なった。

表1.血液型性格判断の機能観の因子尺度(岩井・鷹野,1994)

1	自分や相手の性格について感じている曖昧な気持ちを取り去ってくれる
2	事前に相手の性格を把握できるので、気が楽になる
3	性格を上手く表現できないときの参考になる
4	自分に自信を与え、気分を盛り上げてくれる
5	相手の行動を予測するのに役立つ
6	「私は～型だから仕方がない」と、自分を理屈づけるのに便利だ
7	会話のきっかけになる
8	話をおもしろくする
9	話題に困ったとき、話のネタになる
10	親しみやすい印象を与えたい時に使うと便利だ
11	人を間違った偏見の目で見てしまうものになる
12	個性を切り捨ててしまう恐れがある
13	じっくり観察して人の性格を判断する能力を衰えさせる
14	流行に流されやすい軽そうな人物に見られる恐れがある
15	人に暗示をかけてしまうものだ
16	友達や恋人との相性を知りたいとき、役に立つ
17	気になる人の性格を調べたいときに役立つ
18	自分の性格を知るための手掛かりになる
19	ゲーム感覚で楽しむ、一種の娯楽だ
20	暇なときの気晴らしになる
21	友達と関係がうまくいかないとき、性格が悪いから仕方がないという慰めになる
22	物好きな人が勝手に決めただけのものだ
23	友人や家族とのコミュニケーションに役立つ
24	初対面の人やそれほど親しくない人の性格を推測するのに役立つ
25	他人からどう思われているのか不安なとき、つい、見たくなくなるものだ
26	自分ではわからない運勢を教えてくれる
27	自己を客観的に見つめるきっかけになる

②自意識尺度

菅原(1984)が Fenigstein(1975) の自意識尺度を参考に作成された、自意識尺度を用いた。各項目について「全くあてはまらない」から、「とてもよくあてはまる」の7件法で全26項目である。自意識尺度を表2に示した。

表2.自意識尺度(菅原,1984)

1	自分が他人にどう思われているのか気になる
2	自分の体調の変化はすぐわかる
3	出かける前には、必ず身だしなみを確かめる
4	自分自身に向かって話しかけてみることもある
*	5 世間体など気にならない
6	自分がどんな人間なのか自覚しようと努めている
7	人に会うとき、どんなふうにふるまえば良いのか気になる
8	その時々のお持ちの動きを自分自身でつかんでいたい
9	自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる
*	10 自分自身の内面のことには、あまり関心がない
11	人に見られていると、つい格好をつけてしまう
12	自分の容姿を気にする方だ
13	自分が本当は何をしたいのか考えながら行動する
14	ふと、一步離れたところから自分をながめてみることもある
15	自分についての噂に関心がある
16	人前で何かする時、自分のしぐさや姿が気になる
17	自分を反省してることが多い
18	どんなときにも自分の考えをはっきりさせておきたい
19	他人を見るように自分を眺めてみることもある
20	服装にはあまり気を使わない
21	しばしば、自分の心を理解しようとする
22	他人からの評価を考えながら行動する
23	つねに、自分自身を見つめる目を忘れないようにしている
24	初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう
25	気分が変わると自分自身でそれを敏感に感じ取る方だ
26	人の目に映る自分の姿に心を配る

* :逆転項目

結果

初めにデータ整理を行った。得られたデータに整理番号をつけ、質問項目に欠損あるものはデータ処理対象外とした。有効回答数は90名であり、すべて女性であった。

1. 血液型性格判断の機能観の因子尺度の分析

血液型性格判断に対する態度を問う質問項目22項目について、因子分析を行った。因子の抽出法は主因子法を用い、プロマックスによる回転を行い、結果を表3に示した。

表3. 血液型性格判断に対する機能尺度の因子分析結果

因子名	No	項目項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
気持ちの安定	2	事前に相手の性格を知ることができるので、気が楽になる。	1.03	-.13	.22	-.06	-.05	-.03
	1	自分や相手の性格について感じている確かな気持ちを取り返ってくる。	.76	-.05	.16	-.12	-.05	-.05
	5	相手の行動が予測するのに役立つ。	.65	-.02	-.03	.16	.08	-.18
	25	友達と距離がうまくいかなかったとき、性格が悪いから仕方ないという気持ちになる。	.4	.03	-.17	.25	.05	.12
他者理解	12	個性を切り捨てることになり恐れがある。	-.22	.33	.12	-.15	.03	-.03
	13	じっくり観察して人の性格を判断する能力を鍛えさせる。	-.12	.31	.19	.06	-.03	-.13
	14	流行に流されやすい軽信な人物に思われる恐れがある。	.11	.55	-.1	.2	-.21	-.1
	11	人を正確な目で見ることができなくなる。	.1	.43	-.13	-.21	.08	.24
	15	人を正確にみることができなくなる。	-.16	.47	-.25	-.01	-.17	.21
会話の円滑	3	性格をうまく表現できないときの恐怖になる。	.55	.4	.16	.55	.2	-.14
	8	話を面白くする。	.21	.05	.72	.	-.08	.13
	7	話題のきっかけになる。	.07	.01	.72	-.06	.13	.21
自己理解	9	個性に自信をもち、他の人よりも優れている。	.07	.05	.02	.05	-.13	-.07
	4	自分に自信をもち、気分を盛り上げてくれる。	.06	.03	-.04	.74	-.02	-.01
	10	楽しみやすい印象を考えたときに使うと便利だ。	-.01	-.05	.25	.05	-.03	.05
	27	友人や家族とのコミュニケーションに役立つ。	-.23	-.03	.13	.64	.05	.27
偏見の恐れ	6	「私は～だから仕方ない」と、自分のした行動を理屈づけるのに便利だ。	.17	-.01	-.15	.53	.04	-.01
	16	友達や恋人との関係がうまくいかなかったとき、怒り出す。	-.06	.03	-.03	.1	.74	.03
	17	同じになる人の性格を調べたいときに役立つ。	.13	-.04	-.07	.01	.72	.12
	26	好き嫌いが相手に決めつけられるのが、嫌いだ。	.17	.03	.	.06	-.07	.13
娯楽	22	自分の性格を知るための手段がなくなる。	.24	.01	.04	.17	.45	.12
	23	ゲーム感覚で楽しむ、一種の娯楽だ。	-.12	-.02	.24	-.03	-.04	.63
	24	親友の気持ちになる。	-.12	-.05	-.01	.26	-.03	.63

因子数は、解釈の可能性を考慮し、6因子と決定した。それぞれの因子に 0.35 以上の因子負荷量を示す項目を基に、岩井・鷹野（1994）が呈した「気持ちの安定」、「他社理解」、「会話の円滑」、「自己理解」、「偏見の恐れ」、「娯楽」の 6 つの因子名に振り分けた。

次に、血液型性格判断の機能観の因子の 5 因子の平均、標準偏差、 α 係数を算出した。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「気持ちの安定」「会話の円滑」「自己理解」「偏見の恐れ」「娯楽」、これらの 5 つの因子においては十分な結果が得られなかった。そのため、信頼性に疑問が残るが、今回はそのまま因子として分析を進めることとした。その結果を表 4 に示した。

表4.血液型性格判断の機能観の因子ごとの平均・SD・ α 係数

	平均値	標準偏差	α
気持ちの安定	1.54	.90	.74
他者理解	1.96	.95	.82
会話の円滑	2.52	.95	.77
自己理解	1.61	.93	.71
偏見の恐れ	2.18	.82	.57
娯楽	2.51	1.02	.69

4. 自己意識尺度の分析

自己意識を問う質問項目 26 項目について、因子分析を行った。その結果を表 5 に示した。

因子名	No.	質問項目	因子1	因子2
公的自意識	1	自分が他人にどう思われているのか気になる。	.866	-.131
	26	人の目にかかる自分の容に気を配る。	.776	-.018
	24	初対面の人に、自分の印象を悪くしないように気づかう。	.774	-.007
	9	自分の発言を他人がどう受け取ったか気になる。	.754	-.154
	5	世間体など気にならない。	.739	-.422
	15	自分についてのうわさに関心がある。	.731	-.059
	7	人に会う時、どんなふうにするまえば良いのか気になる。	.666	-.013
	16	人前で何かをする時、自分のしぐさや姿が気になる。	.651	.132
	11	人に見られていると、つかっこうをつけてしまう。	.628	.089
	22	他人からの評価を考えながら行動する。	.627	.25
	10	自分自身の内面のことには、あまり関心がない。	.452	-.02
	12	人の容姿を気にするほうだ。	.438	.155
私的自意識	14	ふと、一歩離れた所から自分をながめてみることもある。	-.219	.725
	21	しばしば、自分の心を理解しようとする。	.031	.718
	18	どんな時にでも自分の考えをはっきりさせておきたい。	-.113	.681
	13	自分が本当は何をしたいのか考えながら行動する。	.16	.664
	19	他人を見るように自分をながめてみることもある。	-.202	.654
	23	つねに、自分自身を見つめるめをわすれないようにしている。	.118	.648
	6	自分がどんな人間か自覚しようと努めている。	.101	.575
	2	自分の体調の変化はすぐわかる。	-.053	.464
	25	気分が変わると自分自身でそれを敏感に感じ取るほうだ。	.333	.45
	8	その時々気持の動きを自分自身でつかんでいたい。	.32	.408
17	自分を反省して見ることが多い。	.295	.368	
残余項目	3	出かける前には、必ず身だしなみを確かめる。	.231	-.013
	4	自分自身に向かって話しかけてみることもある。	.178	.304
	20	服装はあまり気をつかわない。	-.108	.204

項目番号 3.4.20 については残余項目として分析からは除外した。因子数は 2 因子と確定し、菅原（1984）を基に、因子名を「公的意識」、「私的意識」にわけた。

次に、自意識尺度の 2 因子の平均、標準偏差、 α 係数を算出した。内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「公的自意識」では $\alpha=0.90$ 、「私的自意識」では $\alpha=0.87$ で十分な結果得られた。その結果を表 6 に示した。

表6.自意識尺度の因子ごとの平均・SD・ α 係数

	平均値	標準偏差	α
公的自意識	4.18	.96	.90
私的自意識	3.67	.91	.87

5. 血液型性格判断の機能観の因子尺度と自意識尺度の相関関係

血液型性格判断の機能観の因子尺度と自意識尺度の相関関係を表 7 に示した。

表7血液型性格判断の機能観の因子と自意識尺度の因子ごとの相関係数

		気持ちの安定	他者理解	会話の円滑	自己理解	偏見の恐れ	娯楽	公的自意識	私的自意識
血液型性格判断 の機能観の因子	気持ちの安定	-	.40*	.23*	.56**	.64**	.23*	.29*	.39*
	他者理解		-	.02	.23*	.36*	.30*	.32*	.33*
	会話の円滑			-	.35*	.25*	.35*	.29*	.09
	自己理解				-	.57**	.34*	.11	.19
	偏見の恐れ					-	.41*	.31*	.36*
	娯楽						-	.32*	.34*
自意識	公的自意識							-	.49*
	私的自意識								-

**p<.05 *p<.01

気持ちの安定と公的自意識 ($r=0.29, p<0.1$)、私的自意識では ($r=0.32, p<0.1$) とそれぞれ弱い相関が見られた。他者理解と公的自意識 ($r=0.30, p<0.1$)、私的自意識では ($r=0.33, p<0.1$) とそれぞれ弱い相関が見られた。会話の円滑と公的自意識において ($r=0.29, p<0.1$) と弱い相関が見られた。偏見の恐れと公的自意識 ($r=0.31, p<0.1$)、私的自意識では ($r=0.36, p<0.1$) とそれぞれ弱い相関が見られた。娯楽と公的自意識 ($r=0.32, p<0.1$)、私的自意識では ($r=0.34, p<0.1$) とそれぞれ弱い相関が見られた。

考察

結果より、女子大生は血液型に対する性格判断において、気持ちの安定、他者理解、偏見の恐れに対しては、相関が見られたが、自己理解に対しては、相関はほぼ見られなかった。仮説において、女子大生は血液型に対して性格判断を用いる傾向が高い人ほど、自己意識が高くなると考えた。しかし、今回の結果から判断すると、女子大生は、他者を理解しようとする時や、相手とのコミュニケーションを図ろうとする際には、血液型を性格判断に用いようとする傾向が出てくるが、自分のことを自己分析する際には、血液型を性格判断に用いようとする傾向が低いことが言える。また、娯楽と言った雑誌などに記載されているような、占いやテレビの特集といったようなメディアが作った血液型による性格判

断に対しては、比較的女子大生は関心が高い傾向にあることが分かった。

先行研究において、血液型に対する性格判断は科学的根拠のないものされていたが、女子大は、他者の性格を理解する上で、血液型における性格判断は目安程度に使用することが分かったが、自己分析する上での血液型における性格判断は、ほぼ使用しないといても良い結果になった。それは、先ほども述べた心理学の作用においてバーナム効果も、まず他者が性格を位置づけ、思い込みをさせる作用であり、自己からくる思い込みではない。この事から、女子大生は他者から血液型が A 型だから几帳面だ、B 型だからマイペースだ、と言われれば、そのような性格と捉える。つまり、A 型だからおおざっぱだ、B 型だから神経質だと、他者から言われれば、自分はそのような性格だと判断するが、自ら、自分は A 型だから几帳面だ、B 型だからマイペースと血液型から性格を判断することは、今回の結果より女子大生はそのような傾向がないことが言える。

では、女子大生は自己理解をどのようにしているのだろうか。現代は、SNS (twitter、facebook、instagram) など、メディアから自己アピールをするのが主流となっている。女子大生は SNS を通して、自己の思想や、ファッション、繋がりを求めたり、理解したりする傾向がある。一部の決まった人間しか会えない現実の世界よりも、グローバル化された SNS の世界のほうが、共感を得た時の快感が大きくなるのではないかと考える。だからこそ、血液型のような科学的根拠のないものよりは、常に時代の最先端を進んでいる SNS の方に、女子大生は関心度が高くなっているのではないだろうか。

SNS は、血液型のようにパターンが決まったものとは違い、様々な意見交換が行われるようになった。現代の女子大生は、自己理解をするためのツールが多く存在している、血液型はその大きなツールの一つにすぎなくなっただけだ。

私たちは、血液型は性格判断において、自己、他者を理解する上で、とても身近な判断材料として考えていたが、現代はメディアや SNS の発達により、様々な分野において、自己理解できる機会が増えたのだと実感した。それは、現代は、SNS のいいねなど、他者からの評価を簡単に得られるようになっていった。血液型が、廃れていったのではなく、自己や他者を評価するツールが多く進化した結果、血液型は SNS に浸食されてしまったのだと今回私たちは考える。

今回の結果より、女子大生の自己意識は血液型のような科学根拠のないものではなく、SNS のように、目で見て自分も他人も評価が分かるようなものに自己意識が向くことと考えられる。女子大生の自己意識は、血液型のように決められた性格判断ではなく、自己アピールの高評価が重要になってきているのだ。A 型だから、B 型だからといった評価ではなく、個人としての評価を今の女子大生は求めているのではないだろうか。だからこそ、今回血液型は自己理解ではなく他者理解としての性格判断の材料にすぎない結果となったのではないだろうか。

今後の課題

今回の問題点として挙げられるのは、実施した血液型性格診断の方の質問紙が質問項目全 27 項目あるところを項目 24-27 の方が作成時のミスで質問紙から抜けてしまっていたので項目 1-23 までで行った。なので、次回からは事前に質問紙が完成した時にチェックするようにすべきだと考える。

今回有効回答数が 90 人とサンプル数が少なかったので相関が弱かったと考えられる。そのため、サンプル数を増やすことによってより強い相関がみられる可能性があるのではないだろうか。また、今回対象にしたのが女子大生で平均年齢 (19.49 歳) といったように年齢層が偏ってしまったので女性を対象としてももっと幅広い年齢層を対象とすることによって結果に変化がみられると考えられる。これらを検討することを今後の課題としたい。

引用文献

Fenigstein, A., Schwiwe, M.F., & Buss, A.H. 1975 Public and private self-consciousness : Assessment and theory. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, 43, 522-527.

一ノ瀬裕子・村田豊久(1988), 現代女子大学生の心理的特性についての研究, 九州神経精神医学, 44, 147-154.

岩井勇児・鷹野美穂(1994), 血液型性格判断に対する態度 一人格的特質及び機能観との関連から一, 愛知教育大学研究報告, 43(教育科学編), 93-103.

菅原健介(1984), 自意識尺度(Self-consciousness scale)日本語版作成の試み, 心理学研究, 55, 3, 184-188.

上瀬由美子・松井豊(1991), 血液型ステレオタイプの機能と感情的側面, 日本社会心理学会第 32 回大会発表文集, 296-299.

参考文献

柴田雄企(2014), 短期大学女子学生の自己価値と自意識, 大分県芸術文化短期大学研究紀要, 51, 37-42